

青森県東津軽方言の原因・理由表現

竹田 晃子

(1)はじめに

青森県東津軽方言の報告として、同県東津軽郡外ヶ浜町蟹田方言の原因・理由表現について、「原因・理由表現 調査項目一覧」の調査項目にしたがって報告する。この調査では、主目的をドゴデの用法把握と定めた。『方言文法全国地図』では東津軽郡の2地点のみでドゴデが回答されていることから、特に当該地点を調査地点として選択したものである。

調査地点は津軽半島沿岸部に位置し、陸奥湾に面した東津軽郡旧 蟹田町である。蟹田町は2005年3月に平舘村・三厩村と合併し、外ヶ浜町が新設された。外ヶ浜町は人口約8千人、漁業を主要産業とする。旧 蟹田町は、国道280・339号線、JR東日本津軽線、陸奥湾フェリー（蟹田―脇ノ沢）によって青森県内各地と結ばれている。青森市・蓬田村・外ヶ浜町（旧蟹田町・旧平舘村・旧三厩村）・今別町は旧東津軽郡に属し、津軽半島陸奥湾沿いの経済・文化圏を形成する。現在は県内の行政区画として、青森市東隣の平内村とあわせて「東青地域」と呼ばれる。

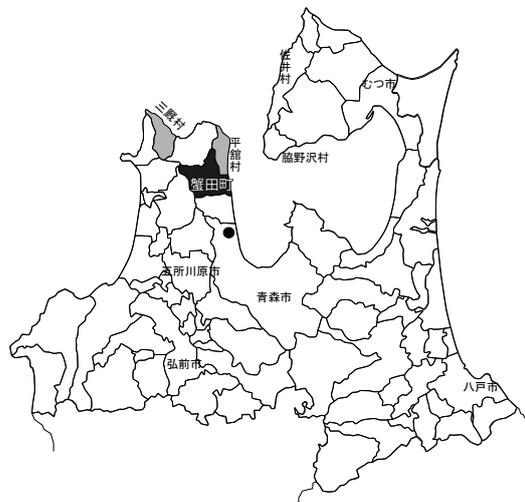


図 外ヶ浜町蟹田の位置

原因・理由表現を扱った主要な先行研究には次のものがあるが、ドゴデの詳しい用法記述はほとんどない。

大嶋 孜 (1986) 『下北半島 大利部落の方言』青森県国民教育研究所

石垣福雄 (1962) 「津軽海峡を渡った順接の助詞について」国文学攷 (通号 27) 広島大学国語国文学会

石垣福雄 (1984) 『北海道方言辞典』北海道新聞社

此島正年 (1968) 『青森県の方言』津軽書房

(2)調査の概要

話者は、1946 (昭和 21) 年生まれ (調査時 61 歳) の女性である。本人とその両親は青森県東津軽郡奥内村 (現・青森市の西北地域) 出身、同郡外ヶ浜町蟹田在住 (36 歳から現在) で、数年前まで青森市中心部に勤務しており、蟹田から通勤していた。旧 奥内村と旧 蟹田町の方言差については、話者の内省によると違いを感じたことはないとのことであり、特筆すべき差異は見られなかった¹。そこで、本報告では、この話者を伝統的な東津軽方言の高年層話者としてとらえ、分析対象を東津軽方言と称して記述する。

調査日程について、本調査は2008年2月26日・27日 (場所: 話者自宅)、補足調査を同年3月28日 (場所: 話者の娘の東京都内の自宅) に行った。調査時間は合計約6時間で、補足調査で

¹ 蟹田生え抜きの高年層 (80代女性) に対する簡単な聞き取り調査に基づく (2008年2月26日)。

は話者の娘²の助言と内省を得た。調査者はいずれも竹田である。

調査は、話者に調査票の共通語例文を確認してもらい、蟹田方言に翻訳した例文を発話してもらうという方法で行った。以下、話者の自発的な発話例文を中心に記述するが、調査者が提案した例文を発話しながら使用の有無を確認してもらった例文も含む。

(3) 文字化について

- ・ 方言文はカタカナで表記し、該当部分を下線で示す。
- ・ 複数の例文が発話された場合、その中で最も典型的なものを選んで示す。文法に関わるもので複数の形式が使用できる場合は、その部分を { } に入れ、/ で区切って列挙した。
- ・ 使用しないことが確認された形式には×を付した。
- ・ 文末の「？」は上昇音調を示す。疑問文でも上昇音調を取らないものには付さない。
- ・ ガ行音・ダ行音は、語頭音以外では鼻音で実現される場合があるが、特記しない。
- ・ 長音・促音・撥音などの特殊拍が短い場合があるが、特記しない。

(4) 調査結果の概略

蟹田方言では、ハンデ、ドゴデの2形式が用いられる。ガラも用いられるが、話者には共通語形として認識されたため、ここでは考察対象から外した。

ハンデとドゴデの違いについて述べる。ハンデは、古語ホドニとデの組み合わせによって生じた形式に由来すると考えられ、ハンデ類（ハデ・ヘデ・セデなどを含む）が北海道旧松前藩・青森県・岩手県中北部・秋田県など東北北部に連続的に分布することが知られる。一方のドゴデは、室町時代に用いられたとされるトコロデに由来するとみられる形式で、先行研究によると、北海道旧松前藩地域と青森県において報告がある³。

用法においては、ハンデには制限がないのに対し、ドゴデには制限がある。第1の特徴として、述語に後接する場合にはハンデもドゴデも使用されるが、述語＋ノダ相当形式にはハンデのみが用いられ、ドゴデは用いられない。これは、ドゴデのドゴ部分が形式名詞であることに起因すると考えられる。

第2に、当該方言における推量表現形式ペー／ベには、ドゴデは後接しない。

第3に、終助詞的な用法では、ドゴデは用いられない。

第4に、接続詞においてドゴデはさらに制限され、発話現場においてPとQが関連づけにくいときはドゴデが用いられないと考えられる。発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定される場合(3-2-3)には用いられるが、既に行った発話行為Qの理由である場合(3-2-4)には用いられない。これは、接続詞のドゴデが、発話現場の状況と話し手の発言が食い違うにもかかわらず「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表す一連の例文(3-3)で用いられないことから裏付けられる。

第5に、聞き手に対する要求表現では、ドゴデは用いられにくい。ハンデのみが回答された例文に則してドゴデの例文を話者に作成してもらおうと、主節は事実の叙述に変更される。

第6に、原因・理由節の述語用法(XはYからだ)では、蓋然性が低い表現になるにしたがって、ドゴデが用いられにくくなる。

² 蟹田出身、調査時25歳の女性。本稿では20代若年層と称する。

³ ドゴデについては、北海道では、石垣福雄(1984)などの報告がある。青森県では、此島正年(1968)、津軽地方の『全国方言資料』(南津軽郡黒石町)・『方言談話資料』(南津軽郡黒石町・青森県青森市大字牛館)・『全国方言談話データベース』(弘前市若党町)、下北地方の大嶋孜(1986)などにより、旧南部藩地域(八戸市を含む)を除くほぼ全域で用いられることがわかる。

なお、『方言文法全国地図』では、第37図「子どものでわからなかった」に対して東津軽郡の2地点にドゴデが回答されたが⁴、第33図「雨が降っているから行くのはやめる」、第35図「だから言ったじゃないか」では回答されない⁵。上記のうち、第4、第5の特徴が反映された回答結果と考えられる。

また、ドゴデは、ハンデと比べると、やや改まった場面で用いられやすい傾向がある(1-1-1, 1-2-4を参照)。話者の内省によると、ハンデもドゴデも同じように使うが、ドゴデはややていねいな表現という印象があるという。さらに、地元の人との津軽弁らしい表現「メンヅ」「カワガネ」「ネデラ」を使う例文にはハンデが合い、相手が聞き取りやすい共通語的な表現「マイニジ」「カワガナイ」「ネデル」を使う例文にはドゴデが合うように感じるということである。

最後に、ハンデとドゴデの使用には世代差がみられた。20代若年層において、ハンデ(またはハデ)は現在もさかんに用いられるが、ドゴデはほとんど用いられなくなっており、上の世代が使用する古い形式と認識されている。同地点出身の20代若年層に例文を確認すると、ハンデは問題なく自発的な回答が得られるのに対し、ドゴデは誘導によって回答されるのみで、使用される例文も1-1, 1-2など典型的なものに限られた。

以下、調査例文をあげる。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因(接続調査を兼ねる)

以下に見られるように、事態の原因の用法ではハンデも用いられ、いずれも活用語の終止形に後接する。

- 1-1-1 メンヅ アメガ フル {ハンデ/ドゴデ} センダグモノガ カワガネ。
 マイニジ アメガ フル {ハンデ/ドゴデ} センダグモノガ カワガナイ。
 1-1-2 メンヅ アメダ {ハンデ/ドゴデ} センダグモノ カワガネ。
 1-1-3 テンキ イー {ハンデ/ドゴデ} センダグモノ ヨグ カワグ。
 1-1-4 コノヘヤァ シヅガダ {ハンデ/ドゴデ} シゴドニ シューチューデギル。
 1-1-5 ユンベ イッペ アメ フッタ {ハンデ/ドゴデ} ジメンニ ミズタマリ デギデダ。
 1-1-6 コドモダ {ハンデ/ドゴデ} ワガラネガッタ。

1-2 行為の理由(後件のモダリティ制限の調査を兼ねる)

- 1-2-1 カラダアンベ ワル {ハンデ/ドゴデ} シゴド ヤスムゴドニシタ ジャ。
 1-2-2 カラダアンベ ワル {ハンデ/ドゴデ} キョーア シゴド ヤスムジャ。
 1-2-3 ヨミジ クレ {ハンデ/ドゴデ} イッシヨニ カエルベ。
 1-2-4 アガンボー {ネデダ/ネデラ} {ハンデ/ドゴデ} シズガニ シロ。
 1-2-5 アガンボー {ネデダ/ネデラ} {ハンデ/ドゴデ} シズカニ シテケネガ。
 1-2-6 アメ フル {ハンデ/ドゴデ} カサ モッテイゲヘー。

1-3 判断の根拠

- 1-3-1a ホシ {デデダハンデ/デデイダドゴデ} アスモ テンキニ ナルベー。

⁴ 東津軽郡三厩村大字宇鉄字釜野沢(276166)、東津軽郡平内町大字口広字田野沢(278451)で、双方においてワラスダドゴデが回答された。

⁵ ドゴデは、小林好日氏による東北方言通信調査資料の「澤山あるからやらう(1941年調査)」「それ故に(それだから)(1939年調査)」においても回答がない。なお、この通信調査資料には、「ので」相当の例文は含まれない。

- 1-3-1b A : アシタモ イー テンキニ ナルビョン／ナルベ。
 B : ナシテ ワガルンズ? (ナシテ ワガンダ?)
 A : ホシ {デデイダハンデ/デデダハンデ /デデイダドゴデ}。
 1-3-2 ヒダリテニ ユビワ ハメデラ {ハンデ/ドゴデ} ケッコンシテラネ。
 1-3-3 セギ デデ ネットポイ {ハンデ/ドゴデ} カゼ ヒーダガモ ワガネ。
 1-3-4 サッキ シンブンハイダヅノ オド シタ {ハンデ/ドゴデ} モーハー ゴズ スギダнда
 べー。

1-4 発言・態度の根拠

- 1-4-1 アブネ {ハンデ/ドゴデ} コノカワデ アソブナ。
 1-4-2 カゼ ヒゲバ マイネ {ハンデ/ドゴデ} アツギシテ デガゲロ。
 1-4-3 キョーノ シゴド ゼンブ オワッタ {ハンデ/ドゴデ} モーハ カエルべー。

1-5 理由を表さない用法

- 1-5-1 スグニ モドツテクル {ハンデ/ドゴデ} コゴデ マツテデケロ。
 1-5-2 イツカイデ イー {ハンデ/ドゴデ} ピラミッドサ ノボツテミツテ。
 1-5-3 オネガイダ {ハンデ/×ドゴデ} スコップ カシテケロ。
 1-5-4 クルマ ヨンデケル {ハンデ/×ドゴデ} スグ ビョーインサ イゲへ。
 1-5-5 ツグエノ ウエサ オイデラ {ハンデ/ドゴデ} オレノ サイフ モツテキテケネガ。

1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

- 1-6-1 A キブン ワリシテ。
 B アツタラニ イッペ ノム {ハンデ/×ドゴデ} ダネ。
 1-6-2 A キョ ミセ {コンデダノ/コンデラノ}。
 B ニチョービダ {ハンデ/ドゴデ} ダネー。
 1-6-3 A サイキン タローノ キゲンガ ワリーンダ。
 B オメー ジローバリ ホメル {ハンデ/ドゴデ} デネベガー。
 1-6-4 A サイキン タローノ キゲンガ ワリーンダ。
 B ジローバリ ホメル {ハンデ/×ドゴデ} ダベガナー。
 1-6-5 A サイキン タローノ キゲンガ ワリーンダ。
 B ジローバリ ホメラレル {ハンデ/×ドゴデ} ダガモ ワガネナー。
 1-6-6 A ヒッコシノ アド, テレビノ チョーシ ワリンズ。
 B ソレヤ ハゴブドギ オトシタ {ハンデ/×ドゴデ} デネガベガ。

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

- 1-7-1-1 テンキヨホ ミダキヤ, バゲ アメ フルソнда {ハンデ/ドゴデ} ハヤメニ カエルべー。
 1-7-1-2 テンキヨホ ミダキヤ, バゲ アメ フルラシー {ハンデ/ドゴデ} ハヤメニ カエル
 べー。
 1-7-1-3 ソラ ミダキヤ, バゲ アメ フリソнда {ハンデ/ドゴデ} ハヤメニ カエルべー。
 1-7-1-4 ドーモ ネット アルンタ {ハンデ/ドゴデ} ハヤメニ カエルゴドニシタ。
 1-7-1-5 アメ フルガモ ワガネ {ハンデ/ドゴデ} カサ モツテキタ。

1-7-2 推量表現

- 1-7-2-1 アメ フルベ {ハンデ/×ドゴデ} カサ モツテゲ。
 1-7-2-2 ヤマデ カナリ アメ フタベ {ハンデ/×ドゴデ} ナダレガ シンパイダ。
 1-7-2-3 タイシタ アメニ ナンネベ {ハンデ/×ドゴデ} カサ モツテ イガネ。
 1-7-2-4 ソド サミベ {ハンデ/×ドゴデ} アヅギシテ デガゲベ。
 1-7-2-5 コノブンダドー アシタモ アメダベ {ハンデー/×ドゴデ} エンソグ チューシニ ナンベナー。

1-7-3 丁寧表現

- 1-7-3-1 チョット ハナシコ アリマス {ハンデ/ドゴデ} コゴサ キテケへ。
 1-7-3-2 キケンデス {ハンデ/ドゴデ} カケコミジョーシャワ ヤメマシヨウ。
 1-7-3-3 クニノ リョーシンガ タズネデ キマス {ハンデ/ドゴデ} キョーワ スコシ ハヤメニ カエラセテ モラッテモ イーデスカ？

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

- 1-8-1-1 コゴデ チョット マツテデ。スグ モドツテクル {ハンデ/ドゴデ}。
 1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテ。ゲズマズマデニ カエス {ハンデ/ドゴデ}。
 1-8-1-3 エキマデ ムガエニキテケへ。シチジニ ツグ {ハンデ/ドゴデ}。

1-8-2 終助詞的用法

- 1-8-2-1 アドデ モイッカイ デンワス {ハンデ/×ドゴデ}。
 1-8-2-2 チョット デカケテクルバテ、オヤツ プリン レンゾーコサ ハイッテル {ハンデ/×ドゴデ}。
 1-8-2-3 オメノコト ゼツテ ワスレネ {ハンデー/×ドゴデ}。
 1-8-2-4 オットサンニ イツケデヤル {ハンデ/×ドゴデ} ナー。
 1-8-2-5 ゴジマデ エギマエノ キッサテンニ イル {ハンデ/×ドゴデ}。
 1-8-2-6 チョット スーパマデ カイモノニ イッテクル {ハンデ/×ドゴデ}。
 1-8-2-7 ヒミツ バラシタラ ダンダデ オガネ {ハンデ/×ドゴデ} ナー。

2 「のだから」の用法

2-1 「から(ので)」との相違

2-1-1a

- (a) ジカン ネ {ハンデ/ドゴデ} イソイダ。
 (b) ジカン ネ {ハンデ/ドゴデ} イソグベ。
 (c) ジカン ネ {ハンデ/ドゴデ} イソゲ。

2-1-1b

- (a) ジカン ネンダ {ハンデ/×ドゴデ} イソイダ。
 (b) ジカン ネンダ {ハンデ/×ドゴデ} イソグベー。
 (c) ジカン ネンダ {ハンデ/×ドゴデ} イソゲ。

2-1-2

- (a) テンキ イー {ハンデ/ドゴデ} サンポニ デガゲダ。

(b) テンキガ イーンダ {ハンデ/×ドゴデ} サンポニ デガゲダ。

2-1-3

(a) メンヅ アメ フル {ハンデ/ドゴデ} センタグモノ カワガネ。

(b) メンヅ アメ フルンダ {ハンデ/×ドゴデ} センタグモノ カワガネ。

2-1-4

(a) ユーベ, イッペ アメ フタ {ハンデ/ドゴデ} ジメンニ ミズタマリ デギデダ。

(b) ユーベ イッペ アメ フタンダ {ハンデ/×ドゴデ} ジメンニ ミズタマリ デギデダ。

2-2 意味・用法（接続調査を兼ねる）

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1

(a) コッタニ ガンバツタ {ハンデ/ドゴデ} コンドア ウマグ イグハズダ。

(b) コッタニ ガンバツタンダ {ハンデ/×ドゴデ} コンドア ウマグ イグハズダ。

2-2-1-2

(a) ダイジナハナシ シテダ {ハンデ/ドゴデ} コドモア アッチサ イゲ。

(b) ダイジナハナシ シテルンダ {ハンデ/×ドゴデ} コドモア アッチサ イゲ。

2-2-1-3

(a) コツァ シンケンダ {ハンデ/ドゴデ} カラカワネンデ ケロ。

(b) オラァ シンケンダダ {ハンデ/×ドゴデ} カラカワネンデ ケロ。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1

(a) ワゲ {ハンデ/ドゴデ}, イッカイヤ ニカイノ シツパイデ クヨクヨスンナ。

(b) ワゲンダ {ハンデ/×ドゴデ} イッカイヤ ニカイノ シツパイデ クヨクヨスンナ。

2-2-2-2

(a) ジュケンセダ {ハンデ/×ドゴデ} モット シンケンニ ベンキョセ。

(b) ジュケンセナンダ {ハンデ/×ドゴデ} モット シンケンニ ベンキョセ。

2-2-2-3

(a) セッカグ リューガグス {ハンデ/×ドゴデ} チャント ベンキョ シテコイヨ。

(b) セッカグ リューガグスンダ {ハンデ/×ドゴデ} チャント ベンキョシテコイヨ。

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカンア マダ イッペ アルンダ {ハンデ/×ドゴデ} ユックリ シテツテケロ。

2-2-3-2 チャンスア マダ アルンダ {ハンデ/×ドゴデ} ゲンキダセ。

2-2-3-3 モージキ タイーン デキルンダ {ハンデ/×ドゴデ} アド スコスノ シンボーダネ。

2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダニ キー ツケロジャー。モー ワガグネンダ {ハンデ/×ドゴデ}。

2-2-4-2 ジブンデ キメロジャー。モー コドモデ ネンダ {ハンデ/×ドゴデ}。

2-2-4-3 ソリャ シンパイスイヨ。オヤダンダ {ハンデ/×ドゴデ}。(オヤダ {ハンデ/×ドゴデ})

2-2-5 終助詞的用法

- 2-2-5-1 ワ (注) ゼッタイ カレド ケッコンスンダ {ハンデ/×ドゴデ}。(注:私は)
 2-2-5-2 コッチガ アマイ カオ スト スグ チョーシニ ノルンダ {ハンデ/×ドゴデ}。
 2-2-5-3 アイダッキヤ (注) マッタグ サケグセ ワリーンダ {ハンデ/×ドゴデ}。(注:あいつ
 ときたら)

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

- 3-1-1 サイキン メンヅ アメ フル。{ンダ/スタ} {ハンデ/ドゴデ} センダグモノ カワガネ。
 3-1-2 ア サンズップンマエダ。{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} ハヤグ オギロ。
 3-1-3 スグ モドテクル。{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} コゴデ マッテイデケロ。

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

- 3-2-1-1 A: サイキンワ マイニヂ アメ フルナー。
 B: ウン。{ダ/ンダ/スタ} {ハンデ/ドゴデ} センダグモノ カワガネシテ コマルジャ。
 3-2-1-2 A: キョー アメ フルソーダ。
 B: {ンダ/スタ} {ハンデ/ドゴデ} カサ モッテ イゲヘー。

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

- 3-2-2-1_1 A: タイヘンダー アメ フッテキター。
 B: {ンダ/スタ} {ハンデ/ドゴデ} ナシタッテ。
 3-2-2-1_2 A: タイヘンダー アメ フッテキター。
 B: {ンダ/スタ} {ハンデ/ドゴデ} ナンダッテ。
 3-2-2-1_3 A: タイヘンダー アメ フッテキター。
 B: {ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} ?

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

この用法では、ダスケ・ダガラともに用いることができる。

- 3-2-3-1 A: ジゴデ デンシャ オグレデイルンダドー。
 B: ンダズナー。{ンダハンデ/スタハンデ/ンダドゴデ/スタドゴデ} ミンナ マ
 ダ コネンダナー。
 3-2-3-2 {コイダ/ンダ} {ハンデ/ドゴデ} レンキューニ デガゲンノ イヤダンダ。
 3-2-3-3 {アイダ/ンダ} {ハンデ/ドゴデ} レンキューニ デガゲルノ イヤダンダ。

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの。

- 3-2-4-1a {ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} ヤメドオゲッテ シャンベッタンダナー。
 b {ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} ヤメドオゲッテ シャンベッタベー。
 c {ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} ヤメドオゲッテ シャンベッタツキヤー。
 3-2-4-2 {ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} スナテ {シャンベッタツキヤ/スタベー}。

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

この用法では、ダガラを用いることはできるが、ダスケを用いることはできない。

3-3-1-1 A：サキ タノンダ スゴド チャント ヤッテケロナ。

B：ン キョージュニ ヤラネー。イマ チョット イソガシンダ。

A：アシタマデニ ヤッテケロナ。

Ba：{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} キョージュニ ヤルッテ {シャンベツチャーベヤ/シャンベツテラベヤ/シャベツテラキヤー}。

Bb：{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} キョージュニ ヤルジャ。

3-3-1-2 A：キョーア タノミテゴド アッテ キタンズ。

B：ナンダ？ ハナシテ ミロ。

A：タイシタ ダイジダ コドダンダー。

B：{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} シャンベツテ ミネガ。

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A：サッキ タノンダ スゴド ヤッテケダ？

B：ア？ ナンダッキヤー。

A：{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} ゴゼンチュニ タノンダ アノシゴドヨー。

3-3-2-2 A：キョー チョンド タナガサンニ イギアッタジャ。

B：ドゴノ タナガサン。

A：{ンダ/スタ} {ハンデ/×ドゴデ} キノー シャンベツテダ サンチョメノ タナガサン。